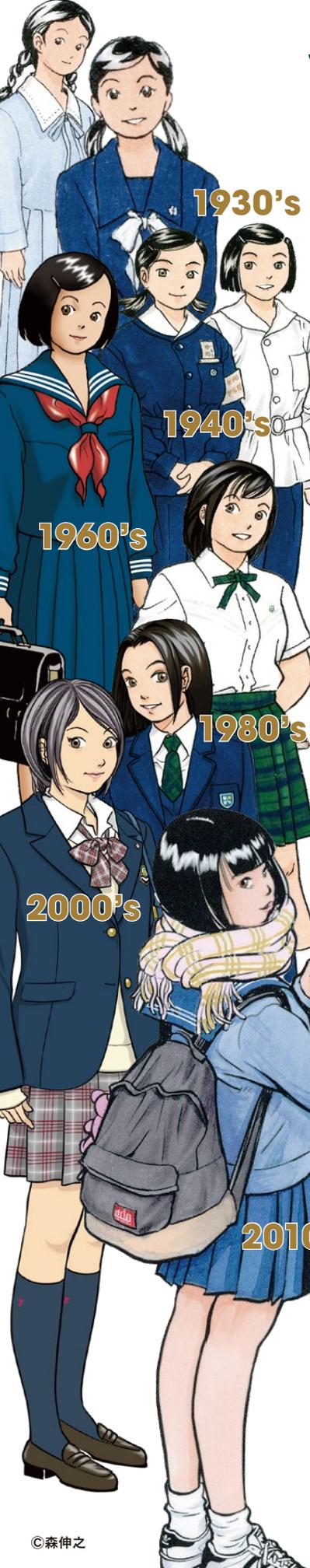


制服の歴史



1930's

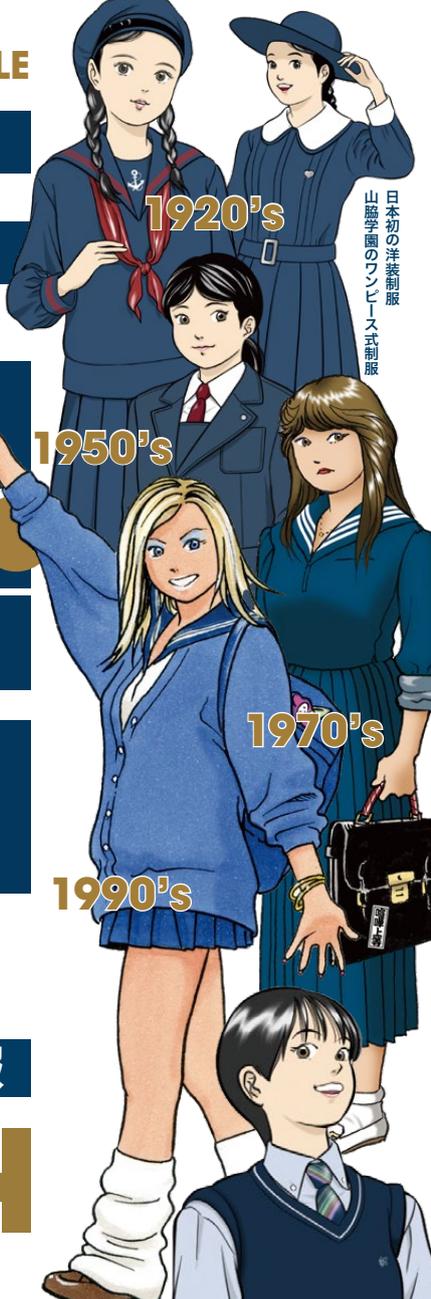
1940's

1960's

1980's

2000's

2010's



1920's

1950's

1970's

1990's

昭和100年！
着こなしの変遷と、
これからの学生服

2025.6.7^土 - 9.14^日

参加アーティスト げみ 江津匡士 近藤智美
T.C.R.横浜銀蠅 R.S. 7限目のフルール なめ猫
マツオヒロミ めばち 森伸之 wataboku

弥生美術館・制服展
第三弾では学生服の「着こなし」方に焦点をあてます。
学生服の心理は複雑です。自己主張をしたがる一方で、周囲と同じでありたいとの気持ちも強く、仲間意識にも敏感です。こうしたデリケートな胸の内は制服の「着こなし」方に現れます。スカート丈やズボン幅やタイの結び方など、わずかな違いではありますが、そこにはたくさんの情報が込められているのです。
1970〜80年代には「ツッパリ&スケパン」、1990年代には「カンクロ&ルーズソックス」など、極端な着こなしも登場しましたが、根底には青春を生きる若者たちの繊細な心理がありました。
また、学生服は「社会の変化をうつす鏡」でもあります。現代は多様性を認める世の中を志向していますが、それに応じて制服もアップデートし、現在は「令和のモデルチェンジブーム」の真最中です。「昭和100年」の今、学生服について考えてみませんか。
実物資料も多数展示。気鋭のアーティストによる絵画作品もご紹介します。

監修 森伸之
イラストレーター 制服研究者

©森伸之

【お知らせ】河出書房新社より「ニッポン制服クロニクル」刊行予定。
会期中、トークイベントやサイン会などを開催します。詳細は美術館公式HPとSNSにてお知らせします。
【特別協力】菅公学生服株式会社



- 東京メトロ千代田線(根津駅) or 南北線(東大前駅) 共に徒歩7分
- JR上野駅公園口・しのぼり口より徒歩20分(東京大学 弥生門斜め前)
- ※ 駐車場はございませんので、お車でのお越しはご遠慮ください。

弥生美術館
YAYOI MUSEUM

113-0032 東京都 文京区 弥生2-4-3
Tel 03-3812-0012
<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

休館日 月曜日
ただし7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)開館、
7月22日(火)、8月12日(火)休館。
開館時間 午前10時〜午後5時(最終入館午後4時半まで)
入館料 一般1200円/大・高生1000円/中・小生500円
竹久夢二美術館と2館併せてご覧いただけます。